

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第2区分

【発行日】平成23年9月8日(2011.9.8)

【公表番号】特表2010-534806(P2010-534806A)

【公表日】平成22年11月11日(2010.11.11)

【年通号数】公開・登録公報2010-045

【出願番号】特願2010-518394(P2010-518394)

【国際特許分類】

F 16 C 33/20 (2006.01)

F 16 C 17/02 (2006.01)

F 04 D 29/046 (2006.01)

F 04 D 29/056 (2006.01)

C 08 J 5/04 (2006.01)

【F I】

F 16 C 33/20 A

F 16 C 17/02 Z

F 04 D 29/046 A

F 04 D 29/056 A

C 08 J 5/04

【手続補正書】

【提出日】平成23年7月19日(2011.7.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0034

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0034】

装置に取り付けられるとき、軸受筒は圧縮して取り付けられることが好ましい。このように部品は、軸受筒の外側表面の周りで装置の部品中に圧縮してぴったりと押し込まれてもよい。

次に、本発明の好ましい態様を示す。

- 1 熱可塑性ポリマーと円周に配向した連続の高引張弾性率纖維とを含む軸受筒。
- 2 前記連続の高引張弾性率纖維が約10cm以上の長さを有する上記1に記載の軸受筒。
- 3 前記熱可塑性ポリマーがフルオロポリマーである上記1または2に記載の軸受筒。
- 4 前記高引張弾性率纖維が炭素纖維、アラミド纖維、金属纖維、ガラス纖維またはセラミック纖維である上記1～3のいずれか一項に記載の軸受筒。
- 5 前記連続の高引張弾性率纖維が前記軸受筒の約10～約70容積パーセントである上記1～4のいずれか一項に記載の軸受筒。
- 6 前記熱可塑性ポリマーがパーフルオロポリマーである上記1～5のいずれか一項に記載の軸受筒。
- 7 第2部品に対して、および第2部品との間で回転する第1部品を含み、かつ、上記1～6のいずれか一項に記載の軸受筒中に前記第1および前記第2部品を接触させる装置。
- 8 ポンプ、圧縮機または液圧式変速機である上記7に記載の装置。
- 9 遠心ポンプである上記7に記載の装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

熱可塑性ポリマーと円周に配向した連続の高引張弾性率纖維とを含む軸受筒。

【請求項2】

第2部品に対して、および第2部品との間で回転する第1部品を含み、かつ、請求項1に記載の軸受筒中で前記第1および前記第2部品を接触させる装置。